

会員のひろば

■ 早くも10年余り

北ノ堂 伊藤鷹夫

平成19年の第一回剪定講習会に参加し、その年の12月に488の会員番号でシルバー人材センターに入会しました。

「自主・自立・共働・共助」の高邁な基本理念のシルバーを十分理解しないまま、当初はチラシ配付の仕事を受けました。1月に水道検針の仕事提案され、2月より試験同行しました。2月8日に大雪が降り、水道メーターが埋もれるなかでのスタートでした。

水道検針は天候との戦いです。暑い夏は、ジリジリと照りつける太陽の下で気が遠くなるほどですが、真冬は雪の時以外は割合と楽なものです。検針の機械が濡れるとまずいので、台風・雨は検針の障害です。ただ、一人仕事のため、体調に合わせたペースで仕事ができるのが魅力といえます。

剪定講習会参加の成果といえるのですが、剪定班のチームに所属し、その一員として楽しく仕事をしています。65歳、70歳の壁と体力は落ちてきているものの、なんとかその壁を通過してきました。ところが75歳の昨年末、「慢性硬膜下血腫」で頭蓋骨に穴を開けられ、牛乳ビン一本の血腫を抜き取りました。以前に灯籠とガチンコしたのが原因のようです。取り除いた後は体が元どおりになって快調です。

剪定の仕事は数人のチームで行っており、いちいち何をするかを言わなくても、それぞれが段取りよく分担していく、チームワークのよいところで楽しく取組んでいます。

お客様・会員・事務局の三位一体で、精華町シルバー人材センターの発展の一助となればと考えて活動しています。



■ 工夫を凝らして続けたい草刈班の仕事

北稲八間 田中美明

運送関係の仕事で定年退職してからシルバー人材センターに入会した。依頼された仕事は草刈り機による草刈り作業。畑違いの仕事のように思われるが、当時は農業をしていたので、草刈り機は手馴れていた。依頼される仕事も、昔はオムロンなど大きな会社での草刈り作業だったが、今は住宅地の中にある公園や小学校の草刈りが多くなった。

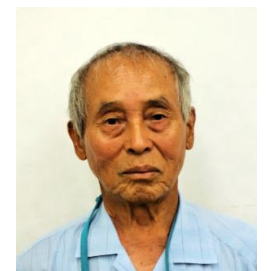
草刈り機の刃が金属の場合、大ケガの要因となることがある。ナイロンコードの場合も石が飛びやすく、これまた事故になることもある。現在は金属の刃で刈り、ネットで石飛びを防いでいるが、隙間から石が飛び事故につながることもある。それを防ぐためにネット以外に3mmのベニヤ板にアルミ板を貼った長さ2m、高さ1mの板を用いて、石飛びを防ぐように努めている。一言に草刈りといっても、このようにいろいろと工夫を凝らしながら、事故のないように気をつけている。

59歳のとき（18年前。今は77歳）、脳卒中になった。家内はびっくり。

家族、特に家内には心配をかけた。6か月間の入院生活をおくったが、現在は後遺症もなく、普通に生活している。

17年間草刈り班に所属しているが、仕事がある限り続けたいと思っている。配分金で心にゆとりが生まれ、それで家内と一緒に掛けるのが楽しみだし、孫に小遣いをあげるのも楽しみの一つである。

地元で生まれ育った幼なじみが多く、今も交流してる。そんな仲間に声をかけて、シルバー人材センターに入会してもらったこともある。会員が宣伝をして入会者が増えること、80歳、90歳、もっと高齢になっても仕事があること、年齢に応じた仕事があることを期待したい。



会員募集 — 当センターのご紹介を！

シルバー人材センターは、定年退職後等に、原則として60歳以上の健康で働く意欲のある精華町在住の高齢者の方々が、長年培われた知識・経験・技能を活かして、地域で活動していただくことにより、生活感の充実、福祉の増進を図り、高齢者の能力を活かした活力ある地域社会づくりをめざしています。

該当するお知り合い、ご近所の方がいらっしゃいましたら、当センターのご紹介をお願いします。